

ケルンメッセ (前編)

koelnmesse



藤原芳生
株式会社医科歯科技研

第1章 IDS ケルンとは何か？

1923年に始まった歯科展示会IDSケルンは、今年で第40回開催100周年を迎えた。筆者がIDSに参加し始めた当初は3年に1回開催で、1980年代のどこかで2年に1回に変更されたと記憶する。IDSは歯科業界で最重要な展示会と認識されており、世界中から集まる革新的な最新技術や製品のレベルは世界一である。各メーカーはIDSを一つのエポックとして機材の開発を進め、効果的な発表の場と捉えているようである。そのため専門販売業者や医療サイドからは毎回大きな注目と期待が寄せられ、西欧にとどまらず、東欧諸国、北アフリカ、北米、アジア、もちろん我が国日本からの歯科関係者の来場も目立つ(図1-1)。

その規模は筆者の感覚ではミッドウインター・シカゴやグレーター・ニューヨークの10倍、国内展示会の15~20倍と思われる(図1-2)。IDS2023の展示会場は7つのパビリオンが使用されたが、各パビリオンに2~

3フロアあり、合計フロア数は15フロアとなる。そのフロアひとつひとつが一般的な歯科展示会の大きさである。図1-2のBを見ていただきたい。最も小さい2号パビリオンのワンフロアにこれだけのブースが密集しているのだ。10、11号パビリオンのフロアはこの倍の広さだ。数字としては過去最大であった2019年のデータによると、出展社数は64カ国から2,327社(73%が外国企業)、来場者は166カ国から約160,095名(62%が外国人)、展示面積は170,000m²であった。とにかく広いところを歩き回ることになる。したがって革靴では脚が耐えられないので、軽くて柔らかいスニーカーを履くことを勧める。2023年私たちのグループは全員スニーカー姿であった(図1-1B)。

IDS2021からはデジタルプラットフォーム「IDScconnect」が導入され、ヴァーチャルでネットワークを構築した各メーカーから最新の情報を直接得ることができる



図1-1 早朝開場前8時20分ごろの状況。開場9時前から人がかなり集まり始める
A: 正門前, B: 同行グループ, C: 当社の参加者3名

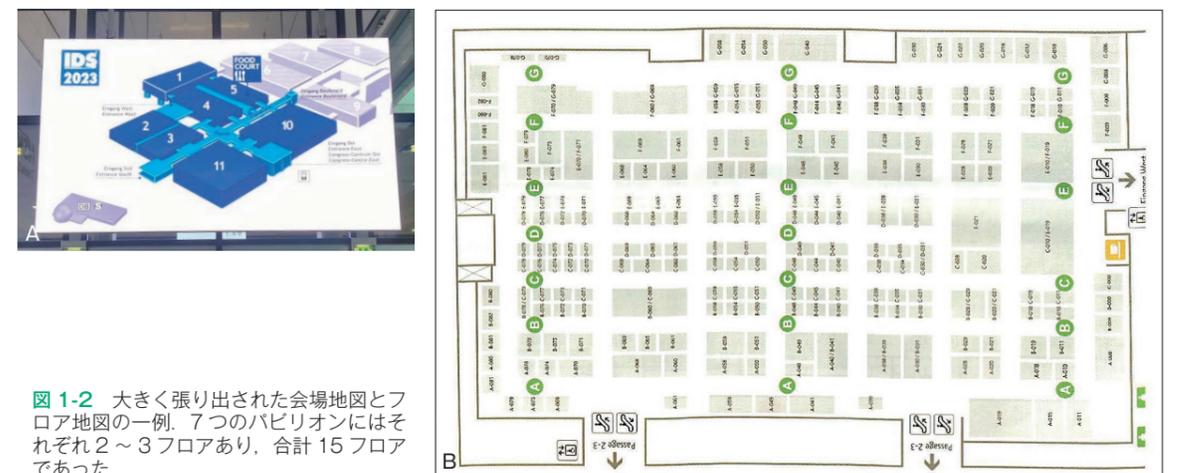


図1-2 大きく張り出された会場地図とフロア地図の一例。7つのパビリオンにはそれぞれ2~3フロアあり、合計15フロアであった



図1-3 広いフードコート

ようになった。さらに来場者は直にブースに行かなくても、ライブ中継の閲覧やオンデマンドのコンテンツにアクセスできるようになった。

今年のIDS2023(2023年3月14日~18日開催)では、展示場面積は増えたものの出展社数は60カ国から1,788社、来場者は162カ国から約120,000名、展示面積は180,000m²で、規模が縮小したことは否めない。これはCOVID-19対策として通路を広く取ったり、大きな食事場所(図1-3)を提供したためであり、筆者は例年より歩きやすいと実感した。普段混み合うタバコ

が吸える中庭も空いている様子であった。

さて2年に1回開催されるIDSは「今後2年のトレンドが読める場所」と言われている。すなわちドラッカーのいう「すでに起こった未来」をそこで見ることができるのだ。「すでに起こった未来」とは、まず世界の変化は地球上のどこかで先に発生する。情報の伝搬には時間がかかるため、変化が起きていない地域の人にとってすでに変化が起きた地域は自分たちの未来の姿なのだとということである。とくに我が国においては、IDSで見られた製品がほぼ2年後に国内販売されることが多い